

増永良文先生のご退職にあたって

伊藤一成

青山学院大学社会情報学部

増永良文先生に初めてお目にかかったのは、2003年私がまだ博士後期課程の学生の時、データ工学系の研究会の時でした。日本データベース学会会長として日本のデータ工学研究のコミュニティーを牽引されているお姿が印象的でした。その時はまさか同じ学部にも所属し新設学部の運営に携わらせていただくことになろうとは思っていませんでした。増永先生は社会情報学部に着任されてからも精力的に研究および教育活動に従事され、数多くの顕著な業績を残されています。誠に僭越ながらいくつか紹介させていただこうと思います。

第一に、集合知創成支援システム WikiBOK を開発されました。新しいがゆえにまだその学問の体系がはっきりしていない社会情報学という学際的学問分野の知識体系 (body of knowledge, BOK) をその学問分野に携わる最先端の研究者の集団が共同して策定することを目的としています。WikiBOK に関する論文は、日本国内の諸学会だけでなく、採択率10% 程度の国際カンファレンスにも採択されており、国内外を問わず高く評価されています。本学部社会情報学部でも幅広い学問領域を対象にしているため、科目群の体系化や科目相互の関係を把握するのにも非常に効果的なシステムです。

また、ソーシャルコンピューティング研究の必要性にいち早く目をつけられ、2010年度より「ソーシャルコンピューティングシンポジウム」を本学部協賛の上で毎年開催されていることは教員一同ご存知のことと思います。ソーシャルコンピューティングは社会における人間同士の関わり合いを支援するコンピュータシステムのことを言いますが、まさしく社会、人間、情報の3つを柱とする社会情報学部において基軸となる研究領域であるのは疑う余地もありません。

増永先生の名刺には「地球丸ごとデータベース」という言葉が書かれています。高機能モバイル端末、情報通信インフラ、SNS が急速に普及し、ありとあらゆる情報が地球規模でリアルタイムに蓄積されデータベース化されています。センサデータベースや実時間データベースの研究も非常に盛んで、実社会でもこれらの技術を応用したサービスが一般社会に普及しつつあります。この「地球丸ごとデータベース」時代到来までの長年に渡る増永先生のご尽力には感服するばかりです。長年にわたりご指導ご鞭撻いただきありがとうございます。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。